

2019 年度
GIS ワーキンググループ活動計画(案)

2019 年 4 月

GIS ワーキンググループ主査

1 活動目標・方針と作業項目

(1) 活動目標

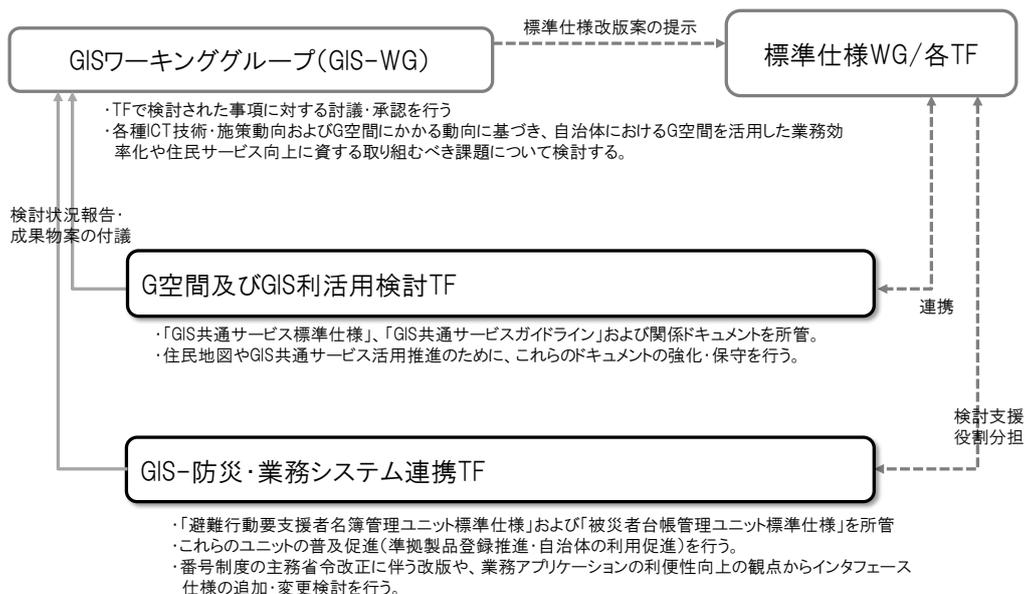
GIS ワーキンググループ(以下、GIS-WG)では、標準推進委員会の活動の目標に基づき、地域情報プラットフォームにおける GIS 共通サービスや関係する業務ユニットに関する標準仕様およびガイドラインの強化・保守等を行い、GIS 共通サービスの活用・普及促進および自治体における GIS と連携した業務の拡充を図ることを目標とする。

従来からの取り組みである、自治体における住民地図¹の普及促進や GIS 共通サービス活用の一層の推進のために、地名辞典²導入の活性化の検討を行う。また、GIS と防災・業務システム連携を推進するための取り組みとして、標準仕様を策定済みの避難行動要支援者名簿管理・被災者台帳管理ユニットの導入・活用の促進および仕様強化のための検討を行う。

また、平成 29 年 3 月に閣議決定された「地理空間情報活用推進基本計画」や、昨今の地理空間情報・オープンデータに係る動向を踏まえて、GIS ユニット等によるオープンデータへの対応についての標準化やガイドライン策定の検討を行う。

(2) 体制と検討・活動事項

GIS-WG の体制と、それぞれの検討テーマについて以下に示す。



1 「住民地図」とは、住民基本台帳を基盤とした住民に紐づく業務情報が見える化された地図のこと。

2 「地名辞典」とは、業務情報の見える化のために場所を表す地名や住所とその位置(座標)が対になったデータベースのこと。特に住所と位置が対になった地名辞典を「住所辞書」と呼ぶこともある。

(2-1) 検討・活動事項① 自治体における住民地図及び GIS 利活用の普及促進

昨年度までの GIS-WG における検討結果を受け、自治体において住民地図の導入促進や地理空間情報に関するオープンデータ化の促進が図れるように検討をおこない、「GIS 共通サービス基本提案書」の改版や、必要に応じた「GIS 共通サービス標準仕様」の保守・改版を行う。

【検討方法】

- タスクフォース(以下 TF)として、「G 空間及び GIS 利活用検討 TF」を設置し、検討作業と成果物執筆を行う。
- 自治体の取り組み事例や要望等を把握し整理のうえ、地域情報プラットフォームの GIS ユニット等として必要な標準化やガイドライン化を行う。
- TF の活動報告および検討結果は GIS-WG に報告し、討議・審議を行う。

(2-2) 検討・活動事項② 防災分野における GIS との連携に関する普及促進

「避難行動要支援者名簿管理ユニット標準仕様」および「被災者台帳管理ユニット標準仕様」の普及促進(準拠製品登録推進・自治体における利用促進)を行う。また、番号制度の主務省令改正に伴う改版や、被災者支援業務の利便性向上や作業効率向上の観点からインタフェース仕様(データ連携や自治体間情報連携等)の追加・変更検討を行う。

【検討方法】

- TF として、「GIS-防災・業務システム連携 TF」を設置し、検討作業と成果物執筆を行う。
- 自治体の取り組み事例や要望等を把握し整理のうえ、関連標準仕様に関する標準化やガイドライン化を行う。
- TF の活動報告および検討結果は GIS-WG に報告し、討議・審議を行う。

(2-3) TF 運用について

TF 活動については原則として下記の運用に従って、設置、運営する。

- TF の構成員は、GIS-WG メンバより公募する。参加団体が多い場合には、GIS-WG 主査が参加希望団体の中より選定する。
- TF では TF リーダを選任し、TF リーダは検討・作業の取りまとめを行う。
 - 「G 空間及び GIS 利活用検討 TF」の TF リーダは(株)パスコ、
 - 「GIS-防災・業務システム連携 TF」の TF リーダは富士通(株)を予定する。
- TF 会議は検討状況に応じて TF リーダが適宜設定・召集する。
 - 検討内容によっては、個別の検討・作業チームを立ち上げる場合があり、その構成や運用は TF リーダに委ねる。
 - WG 参加自治体の意見等を着実に反映するべく、必要に応じて GIS-WG との同日開催や共同開催とする場合がある。
- TF の活動報告・検討結果等は、GIS-WG へ報告し、必要に応じて審議・議決する。

2 ワーキンググループ開催予定

ワーキンググループの開催予定を下表に示す。

回数	予定時期	予定内容
第1回	5月	年間活動計画の審議 TFメンバの募集
第2回	8月	各TFの検討状況報告・討議
第3回	11月	各TFの検討状況報告・討議/成果物方向性の確認
第4回	2月	各TFの検討状況報告・討議/成果物の審議

- 開催回数と時期は目安とし、集合形式の開催を追加することや、メーリングリスト等での開催をする場合がある。
- 参加自治体の意見等を着実に反映するために、各TFとの同日開催や共同開催とする場合がある。

3 予定成果物

GIS-WGでの検討結果に基づき、以下のドキュメントの改版案を作成する。

- GIS共通サービス標準仕様基本提案書(改版案)
- 避難行動要支援者名簿管理・被災者台帳管理業務ユニット導入ガイド(ドラフト版)

また、検討の結果必要であれば、以下のドキュメントの改版案を作成し、GIS-WGで承認を行ったうえで標準仕様案として、標準仕様WGへ提示する。なお、成果物の版数管理については、地域情報プラットフォーム仕様運用規則に準じるものとし、成果物の版数は標準仕様WGと調整し決定する。

- GIS共通サービス標準仕様(改版案)
- 防災業務アプリケーションユニット標準仕様
避難行動要支援者名簿管理(改版案)
被災者台帳管理(改版案)

以上

2019 年度 G 空間及び GIS 利活用検討TF活動計画(案)

1 活動の基本方針

G 空間及び GIS 利活用検討TFでは、以下の活動方針に従い GIS の普及促進を行う。

- 自治体への GIS 導入を促進する GIS 共通サービス標準仕様基本提案書の改版
- GIS 利用による自治体保有のデータ活用を拡大化する方策の検討
- 標準仕様 WG や GIS ワーキンググループにおける GIS-防災業務システム連携 TF と連携した活動の実施

2 活動目標

地域情報プラットフォームにおける GIS 共通サービスに関する標準仕様およびガイドラインの強化・保守等を行い、GIS 共通サービスの活用促進や普及促進を図ることを目標とする。

GIS 共通サービスガイドライン V2.8 及び自治体のインタビュー記録等の資料を用い、自治体における住民地図の普及促進や GIS 共通サービス活用の一層の進展を目標として、「GIS 共通サービス標準仕様基本提案書(以下、基本提案書)」の改版を予定する。

また、基本提案書の事例の強化や、自治体業務への GIS の普及に向けて、GIS 共通サービスガイドライン V2.8 や事例集を用いて、APPLIC活動に協力いただける地方公共団体との意見交換やインタビューを実施する。

スケジュール(案)

#	項目	2019年										2020年				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
1	標準推進委員会															
2	標準推進WG	▲								▲			▲		▲	
3	GIS-WG															
	タスクフォース会議開催 (必要に応じてGIS-WGと会議を共通化)		▲		▲					▲			▲			
4	検討・作業テーマ① GIS共通サービス標準仕様基本提案書の改版															
	GIS共通サービス標準仕様基本提案書の改版															
	自治体インタビュー															
5	検討・作業テーマ② GIS共通サービス標準仕様等の保守、その他															
	検討・取りまとめ作業(主査・リーダー中心)															

※6月以降の日程は想定

3 主な検討テーマ(予定)

(1) 検討・作業テーマ① GIS 共通サービス標準仕様基本提案書の改版

GIS 共通サービスガイドライン V2.8 及び自治体のインタビュー記事の資料を用い、自治体における住民地図の普及促進や GIS 共通サービス活用の一層の進展を目標として、「GIS 共通サービス標準仕様基本提案書」の改版を予定する。

基本提案書の改版に際しては、GIS の活用が課題解決に資するものである点や、自治体情報のオープンデータ化には地名辞典(住所辞書)が有用である点など、昨年までのタスクフォースの活動成果を活かし、自治体に向けて分かりやすく解説する資料となることを目指す。

また、「GIS－防災・業務システム連携タスクフォース」と連携し、防災シーンにおけるGISの活用の事例を追加し、GISの自治体への普及活動に使いやすい基本提案書を目指す。

基本提案書は、改訂前と同様に小冊子型の資料とし、配布しやすさと内容の分かりやすさを考慮して作成する。

- GIS の導入を今後検討する自治体への GIS の活用効果を分かりやすく解説する導入部分の構成の検討
- 地名辞典の整備と住民地図の作成に関する事例の収集(自治体インタビュー)
- オープンデータへの地名辞典の活用に関する事例の収集(自治体インタビュー)
- 基本提案書原稿案の作成

(2) 検討・作業テーマ② GIS 共通サービス標準仕様等の保守、その他

地域情報プラットフォーム標準仕様の運用ルールに基づき、策定済みの「GIS 共通サービス標準仕様」についての保守を行う。関係参考資料についても必要に応じた保守を行う。また、他の WG 及び TF と協調し「地域情報プラットフォーム基本説明書」の GIS 共通サービスに関する記述の保守・強化を実施する。

- 技術標準改版等に伴う保守を実施する
- GIS 共通サービス標準仕様やチェンジリクエスト(CR)に伴う保守を実施する
- 相互接続確認活動への協力を行う
- GIS 共通サービス標準仕様に関係する標準規格や外部の検討活動等の最新動向を踏まえ、必要に応じて、関連文書への反映の検討を行う

4 成果物(予定)

以下の成果物を予定する。

- GIS 共通サービス標準仕様基本提案書(改版案)

また、必要に応じて以下のドキュメントの改版を行う。

- GIS 共通サービス標準仕様
- GIS 共通サービスガイドライン(地域情報プラットフォームガイドライン別冊)
- 地域情報プラットフォームにおける GIS ユニット調達の手引き

以上

2019年度 GIS-防災・業務システム連携 TF 活動計画(案)

1 活動の基本方針

GIS-防災・業務システム連携 TF では、「避難行動要支援者名簿管理業務ユニット」「被災者台帳管理業務ユニット」について、以下の活動方針に従い自治体への導入・活用の推進、標準仕様の強化について検討を実施する。

- 自治体への標準仕様の利用促進に向けてツールの整備や PR イベントを実施
- インタフェースの見直し・追加など標準仕様の強化
- 標準仕様の保守及びベンダー等の準拠製品登録

2 活動目標

自治体における防災・災害対応業務と基幹系業務および GIS との連携を促進するために、「防災業務アプリケーションユニット標準仕様 避難行動要支援者名簿管理業務ユニット・被災者台帳管理業務ユニット」の普及促進を図る。

また、昨年度まで継続検討してきた新インタフェースに関する検討項目について、業務アプリケーションの利便性向上の観点から標準化要否検討を行う。さらに関係法令改正、チェンジリクエスト(CR) 当に伴う検討を行い必要に応じて仕様改定を実施する。

スケジュール(案)

#	項目	2019年										2020年						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
1	標準推進委員会																	
2	標準推進WG		▲															
3	GIS-WG			▲														
	タスクフォース会議開催 (必要に応じてGIS-WGと会議を共通化)			▲														
4	検討・作業テーマ① 標準仕様の普及促進																	
	導入ガイド作成 PRイベント対応																	
5	検討・作業テーマ② 標準仕様の強化																	
	新インタフェースの検討作業																	
6	検討・作業テーマ③ 標準仕様の保守																	
	標準仕様改版可否検討 準拠製品登録支援																	

※6月以降の日程は想定

3 主な検討テーマ(予定)

(1) 検討・作業テーマ① 標準仕様の普及促進

昨年度に引き続き自治体の利用促進を図るための活動を実施する。今年度は、避難行動要支援者名簿管理及び被災者台帳管理のシステム導入に向けた、業務ユニット導入ガイドラインを作成する。

- 自治体がシステムを導入する際に考慮すべき事項を整理する。法制度に関連する事項に関しては内閣府(防災担当)と連携して検討を進める。
- 既に導入している自治体の状況を調査し、運用上の課題や留意事項を整理する。
- 導入・運用事例を収集する。
- APPLICのイベント等での広報活動を実施する。

(2) 検討・作業テーマ② 標準仕様の強化検討

昨年度に引き続き、被災者台帳管理業務アプリケーションの利便性向上の観点から新しいインタフェース追加について検討する。

- 固定資産税関連情報とのデータ連携について標準化可否を検討する。具体的な実施例を調査し、連携方式の分類やデータ項目に整理する。
- 被災者台帳データの自治体間連携等、被災者台帳管理業務ユニットからデータを出力するインタフェースの必要性について検討する。

(3) 検討・作業テーマ③ 標準仕様の保守

関係法令改訂、CR等の検討を行い必要に応じて業務ユニット標準仕様の改定を実施する。またベンダー等による準拠製品登録を支援する。

- 災害対策基本法、番号法など関係法令の改訂に対して、標準仕様の改訂要否を検討する。
- CR、Q&A に対応すると共に、必要に応じて仕様改訂の検討を行う。
- 相互接続確認試験の実施に協力する。

4 成果物(予定)

以下の成果物を予定する。

- 避難行動要支援者名簿管理・被災者台帳管理業務ユニット導入ガイド(ドラフト版)

検討の結果、標準仕様の改定を行う場合、以下の成果物を想定する。

- 防災業務アプリケーションユニット標準仕様
 - ・避難行動要支援者名簿管理(改版案)
 - ・被災者台帳管理(改版案)

以上